

本部 20 周年記念行事参加者費用カンパに関する件

代表: 平塚圭彦

表題の件、会報で皆様にご協力をお願いしておりますが、先月の総会時にもカンパをお願いしましたところ、別記の通り30,235円のご支援を頂きました。本件締め切りは12月末としていますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いたします。会場が遠方で費用も掛かりますが、カンパいただいた方の分も頑張ります。一般会員の方も積極的にご参加下さることを期待しております。

詳細を8月末日までに本部に連絡の必要がありますので、参加される方はそれまでに事務所または運営委員宛てに電話・faxの何れかで連絡いただければ幸いです。

【運営委員の紹介コーナー】

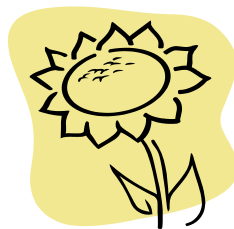
今月は大野^{やすとし}晏稔さんです

広島県出身

都銀の定年退職を機にナルク入会

10年以上会計担当として余人をもって代えがたく、拠点の財務大臣、又庭木の剪定・消毒や病院への送迎など八面六臂の大活躍で、わが拠点の大黒柱です。

笑顔がやさしく、気さくで誰に対しても親身に接し、多くの会員の皆様から頼りにされる存在です。銀行時代の仲間からはアンネンさんとよばれ頼りにされています。



文芸コーナー

『小倉百人一首』

『おほけなく 浮世の民に おほふかな わが立つ^{そけ}袖に すみぞめの袖』

前大僧正慈円作



身のほど知らぬことではあるが わが墨染めの袖を 私は うき世の民に おおいかけるのだ すべての人の上にあまねく みほとけの冥加あらせたまえと 比叡の開祖・伝教大師の みこころを慕って

田辺聖子訳

【言葉の意味】

「げぼひょう」

『下馬評』

責任のないところであれこれと評すること、あるいはその評判を称して「下馬評」といいます。もとは、江戸城城門の下馬先(こ)で馬から降りて徒歩で行くので、大名たちが登城したあと、お供の侍やかごかき連中が、待合所で退屈のぎにする評定(うわさ話)からきたといわれています。

【俳句】

『梅雨穂草 四方のしなりの やさやさし』 杉木妙子作

『夕涼み カエルの合唱 ガギグゲゴ』 伊藤恵美子作